

Super-GT 第6戦 Pokka 1000KM #22 MOTUL AUTECH Z 2位,3戦連続入賞!

(8/19-20)

今年からSuper-GTのシリーズ戦に組み込まれることになったPokka 1000kmは今年で35回目を迎える。長丁場のレースの上、セパンと並ぶ暑さの中何が起るか予想出来ないレースである。

19日予選日、台風の影響が心配されたが気温は30度、湿度が80%近くある曇り空となった。スーパーラップの結果は#3イエローハット YMSトミカZ 8位,#18 TAKATA童夢 NSX 6位、#22 MOTUL AUTECH Z 10位、#23 XANAVI NISMO Z 7位。

翌20日、決勝日の気温は31度、路面温度は53度まで上昇する暑さとなった。GT500クラスレースはポールポジションのカルソニックインパルがトップをキープ。#1と並び最重量となる80Kgものウェイトハンディを搭載した#22は、クルム選手の確実な追い上げで37周目には4位まで順位を上げる。その後ライオン選手とドライバー交代を繰り返しながら安定した走りを見せ、6時間に及ぶレースを2位でフィニッシュ。#3は8位、#18は21周目にエンジントラブルが発生しリタイア。その他#23は失格という結果になった。その結果クルム選手がドライバーポイントランキングで1位となった。

各チームの長丁場レース対策

1000kmは通常のSuper-GTにはないナイトランがあり、補助灯の装着が許されています。又、第3ドライバーの登録が認められており、#3はダレン・マニング、#18は金石年弘、#22はファビオ・ガルボーン、#23は井出有治、がそれぞれエントリーしましたが、#22のガルボーン選手は実際にステアリングを握ることはありませんでした。

#22のMOTULのロゴは夜になると光る蛍光ステッカーが採用され、天井のカラーリングも暑さ対策の為シルバーに変更、又、巨大な補助灯も装備されました。

長時間の走行はオイルを消費し、ピットインの際に通常は行わないオイル補充をするチームも見られました。

オイルを補給する為の特殊装置を発見！近くで見ないと解らないオイル給油口(走行中は専用の蓋つき)がありました。

